



WWF ジャパン
(公財)世界自然保護基金ジャパン
〒108-0073
東京都港区三田 1 丁目 4 番 28 号
三田国際ビル 3F

Tel: 03-3769-1711
Fax: 03-3769-1717
www.wwf.or.jp

環境大臣 石原 宏高 様

最も危険な海ごみである「ゴーストギア」の 実態・実状把握調査に係る要望書

令和 8 (2026) 年 6 月 8 日
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
事務局長 東梅貞義

平素より、環境行政及び漂着物対策にご尽力頂き深く敬意を表します。

公益財団法人世界自然保護基金 (WWF) ジャパンは、人と自然が調和して生きられる未来をめざし様々な環境保全活動を行っています。WWF ジャパンでは、海洋プラスチック汚染の低減にむけた活動も進めており、特に、漁網・化繊ロープ、仕掛け漁具、釣り糸など、漁業由来の海洋プラスチックごみ「ゴーストギア」に着目しております。漁業者の手を離れた漁具が、漁獲機能を保持したまま長期的に海中を漂流するゴーストギアは、水産有用生物の死傷、サンゴなどの海洋生態系への悪影響、さらに漁船や定期船等の航行阻害や海難事故を引き起こす危険性が指摘されているだけでなく、マイクロプラスチックの増大の恐れもあります。

このため、WWF ジャパンでは、ゴーストギアの存在やその悪影響を調べる目的で日本沿岸にて潜水調査を実施しました。本潜水調査は、2023 年から 2026 年にかけて離島含む日本国内 7 地点において現地漁業者とダイバーと協働で実施しました。スクーバ潜水により実際に海中のゴーストギアを発見し、生物の死傷、サンゴの損壊、マイクロプラスチック化した漁具、漁業や観光業への悪影響など、環境面だけでなく社会経済面への被害も確認されました。

特に東シナ海側では、海外または地区外由来と思われる全長 100m 超の大型ゴーストギアが複数、沿岸部に漂流し、回収も難しいことから放置されておりました。これらは時間と共に海岸に漂着、再漂流する恐れがあるため、地元関係者と連携して回収しました。本潜水調査については、当団体として資金的に継続が難しいため終了となりますが、7 地点の調査のみでは多様な海洋生態系をもつ日本の沿岸域 (離島含む) を代表するとは言えません。ゴーストギアの実態等の把握に向けた調査を全国規模で実施することが、今後の海洋プラスチック対策のために不可欠であると考えます。

環境省においては、地方公共団体向けの漂着ごみ組成調査ガイドラインを作成し、漂着ごみの組成や存在量、これらの経年変化の把握が進められています。漂着ごみ組成調査結果では、漁具全般が上位に入っており、それら海岸近くの海中にも、多くのゴーストギアが存在し、周縁環境への悪影響が推察されます。

漁業者がゴーストギアを放置せざるを得ない要因の一つに、その回収・処理の負担があります。環境省では海岸漂着物等地域対策推進事業により自治体への財政支援を行っておりますが、積極的なゴーストギアの回収には継続した処分費の補助が求められます。

第26回日中韓三カ国環境大臣会合にて採択された新たな共同行動計画（2026-2030年）では、優先分野の協力活動にプラスチック汚染が挙げられ、汚染実態の把握等の共同研究・調査のプロジェクトの実施についての検討が提示されたことは、正に好機であると受け止めたところです。

以上のことから、ゴーストギアの存在状況やその被害実態、発生の背景要因等を把握し、効果的な対策につなげるための全国規模の調査実施について、下記のとおり要望致します。

記

- 要望1. 日本沿岸域に存在するゴーストギアの実態を把握すること。そのために、「海洋ごみ実態把握調査」と連携した全国的なゴーストギア調査を実施すること。
- 要望2. ゴーストギアを含む漁具の廃棄物管理の徹底に関する現状を把握すること。そのために、「漁業系廃棄物処理ガイドライン」および「漁業系廃棄物計画的処理推進指針」の実施状況に関する現状調査を実施すること
- 要望3. 海洋流出もしくは不適切に廃棄される漁具の量を把握すること。そのために、水産庁と連携して日本国内で生産（および日本に輸入）・流通・使用・廃棄される漁具のライフサイクルフローを把握すること
- 要望4. 上記調査を踏まえた、ゴーストギアの発生予防、被害軽減、回収策を検討すること

以上

ぜひ前向きなご検討を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。